

【1 分解説】心理的安全性とは？

総合調査部 マクロ環境調査グループ 研究員 高宮 咲妃

心理的安全性 (psychological safety) は、1965年にScheinらによって提唱され、その後、Edmondsonが発展させた概念です。Edmondson氏は、心理的安全性をチーム構成員一人ひとりの特性ではなく、「チーム全体の特性」として捉え、「自分のチームは仕事をする上で対人関係上のリスクをとっても安全だ、とチームの皆が感じていること」と定義しています。つまり、会社の部署等において、思ったことを発言しても対人関係を損なうことはないメンバー全員が信じている状態のことを指します。

心理的安全性が確保されるとメンバーは安心して発言できるため、各メンバーのエンゲージメント（やる気等）が向上するほか、多様な意見に耳が傾けられるのでチームとしてより良い意思決定に繋がります。また、お互いの失敗を共有し、学ぶことができるため、継続的な学習と改善の文化が醸成されます。このように、様々な研究で心理的安全性がチームの生産性やイノベーション等に効果的であることが証明されています。

しかし、生産性をより高めるためには心理的安全性の他に「目標に対する責任感」という大切な軸があります。心理的安全性だけ高い状態では、メンバーは快適に仕事が出来ていても、一生懸命働くことはありません。心理的安全性と同時に「責任感」も併せて高めていくことが重要となります。

関連レポート

- ・「QOL 向上の視点『Well-beingの実現は「心理的安全性の確保」から』」(2022年6月)
<https://www.dlri.co.jp/report/dlri/187815.html>